

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 6 月 22 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(A)

研究期間：2012～2014

課題番号：24243004

研究課題名(和文)未公開資料群に基づく二院制の比較憲法史的研究 - 議院運営実務と議会官僚の衡量過程

研究課題名(英文)The Comparative Study of Bicameral System: Mainly Focused on the Secretariat and Secretary of Two Houses in Japan

研究代表者

大石 眞 (OHISHI, Makoto)

京都大学・総合生存学館・教授

研究者番号：90091660

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 17,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、膨大な未公開資料群(衆参両院事務局所蔵)の本格的な活用を通して、1)わが国の憲政史における両院関係の展開を実証的に再検証すると共に、2)議会法・議会先例の形成・確立過程や、3)それらを支えた議会事務局の機能や議会官僚の役割を解明することであった。主たる研究成果としては、1)『初期日本国憲法改正論議資料』の公刊、2)「河井弥八日記」「平野貞夫日記」をはじめとする各種私文書の調査・公刊、3)議会法や両院関係にかかわる論文や図書の公刊が挙げられる。

研究成果の概要(英文)：The aim of this study was to analyze 1)the relations of two Houses in Japanese constitutional history, 2)the process of the formation and establishment of parliamentary laws and parliamentary practice, 3)the role of secretariat and secretary of two Houses by using unpublished primary resources. The main results of this study are as follows. 1)We published "Shoki Nihonkoku Kenp&#333;kaisei rongi shiry&#333;(Documents on the Revision of the Constitution of Japan)", 2)We researched and published various private papers such as "Kawai Yahachi Diary" and "Hirano Sadao". 3)We published papers and books regarding parliamentary laws and the relations of two Houses.

研究分野：憲法学・立法学

キーワード：公法学 政治学 憲法史 議会法 両院制 議会運営 議会先例 議会資料

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 近年の憲政史研究は、各種の内外資料の公開・発掘により飛躍的な展開を遂げているが、国会両議院は情報公開法の適用対象外とされ、従来、その所蔵資料への外部からのアクセスは不可能であった。そのため、両院間の調整プロセスを規律する議会先例の形成や、議事運営に係る独自調査の遂行など、両院制度の運用にあたって大きな役割を果たしてきた両院事務局・議会官僚の役割についてはブラックボックスとされ、本格的な研究は手つかずの状態にあった。

(2) このような状況に鑑み、申請者(大石)を代表とする研究グループは、2008年春から科学研究費補助金を得て、衆議院議事部の所蔵する帝国議会時代の資料の整理・保全に取り組み、国会法、議院規則及び議会先例の形成・確立過程を解明するための資料的基盤を構築すると共に、議会事務局の役割を、資料研究、オーラル・ヒストリー、諸外国の例との比較照合という観点から明らかにしてきた。本研究は、以上の研究成果の上に立ち、研究対象を参議院事務局の所蔵する帝国議会時代(貴族院)の資料や貴族院書記官経験者の私文書にまで拡大し、わが国における二院制のあり方を比較憲法史的に解明するために構想されたものである。

## 2. 研究の目的

(1) 本研究は、申請者グループが閲覧を許された未公開資料群(衆参両院事務局所蔵)の本格的な活用を通して、わが国の憲政史における両院関係の展開を実証的に再検証し、両院間調整を規律する議会法・議会先例の形成・確立過程を明らかにすると共に、それらを支えた議会事務局の機能や議会官僚の役割を解明することを具体的な目的とした。

(2) さらに、両院間の調整メカニズムの運用のあり方を、実務的観点を含めて総合的に再検討することによって、議会法・議事法研究に新たな基盤を提供すると共に、国民・議会・内閣を含めた調整プロセスのあり方について新たな視点・解決策を提示することをも目指した。

## 3. 研究の方法

本研究の具体的な方法は、以下の通りである。

(1) 憲法学・議会法学・政治(史)学を専攻する研究者を糾合し、両院間の調整実務・議会官僚の機能といった未開拓の研究領域について、学際的な実証研究を行った。

(2) 両議院事務局の全面的な協力を得つつ、未公開資料群に基づく実証研究とオー

ラル・ヒストリー・メソッドを駆使することによって、実務経験と学問的分析の架橋を図った。以上の調査・研究成果を共有し、関係者の意見交換を行うため、東京、京都、掛川において定期的に研究会を開催した。また、研究代表者の大石、分担者の原田は、国立国会図書館調査・立法考査局説明聴取会に定期的に参加し、講演を行った。

(3) 研究の過程で発掘・整理した重要資料を史料集として公刊し、広く活用されることを可能にすることによって、学術的基盤を強化することを目指した。特に、貴族院で憲法制定に携わった関係者が内密に行った憲法研究会の膨大な速記録である「月曜会」「萍憲法研究会」文書(参議院事務局所蔵)、平野貞夫氏(元衆議院委員部長)の衆議院事務局在職時代の日記、河井弥八(貴族院書記官長・貴族院議員・参議院議長などを歴任)の日記といった画期的憲政史料について、参議院事務局、掛川市教育委員会、河井家、尚友倶楽部などの全面的な協力を得て本格的な調査を実施し、その出版の準備を進めた。

(4) 二院制のあり方や、各国議会が所蔵する各種史料の将来的な保存・公開のあり方を検討するため、イギリス、フランスの議会(議会事務局、議会文書館を含む)において現地調査を実施した。

## 4. 研究成果

本研究の主たる成果は、以下の通りである。

(1) 衆議院事務局所蔵「庶務課日誌」について調査を実施し、目録作成やデジタル撮影を進めた。また、「各派交渉会」記録の検討を行い、GHQ・貴族院などとの関係を明らかにすることができた。これらの史料の保存・活用のあり方については、今後衆議院事務局と相談しながら検討を進めていく予定である。

(2) 参議院事務局所蔵史料については、「貴族院彙報」の各種異本の調査やデジタル撮影を進めた。これらの史料の保存・活用のあり方については、今後参議院事務局と相談しながら検討を進めていく予定である。

(3) 貴族院で憲法制定に携わった関係者が内密に行った憲法研究会の膨大な速記録である「月曜会」「萍憲法研究会」文書(参議院事務局所蔵)を調査・検討し、『初期日本国憲法改正論議資料』として公刊した。

(4) 「平野貞夫日記」の全面的調査を実施し、『平野貞夫衆議院日記』第一～四巻として公刊した。引き続き第五巻公刊の準備を進めている(全五巻で完結の予定)。

(5) 「河井弥八日記」の全面的調査を実施

し、その出版準備を進めた。戦後分の日記の概要を、論文「参議院議長河井弥八日記」(『中央公論』)として紹介した。

(6) 掛川市の河井弥八記念館(二〇一二年開館)において、毎年講演会を開催し、研究成果の市民への還元を図るとともに、掛川市に伝わる史料や情報の収集に努めた。講演会の実施状況は、以下のとおりである。

2013年3月16日

・大石眞(京都大学教授)「天皇機関説以後の美濃部達吉」  
・村井良太(駒澤大学准教授)「宮中官僚河井弥八の見つめた衆議院 衆議院各派協議会の働きを中心に」  
・小林和幸(青山学院大学教授)「河井弥八の政治的基盤と貴族院」

2014年3月15日

・小田部雄次(静岡福祉大学教授)「河井弥八日記に見る『昭和初期の天皇と宮中』」  
・内藤一成(宮内庁書陵部主任研究官)「参議院議員河井弥八の誕生と掛川」

2015年3月14日

・見城悌治(千葉大学准教授)「河井重蔵と田中正造の交流～田中正造書簡の内容を中心に」  
・前田寿紀(淑徳大学教授)「河井弥八の甘藷増産活動」

(7) イギリスの議会文書館における調査結果を、論文「イギリス議会文書館・図書館の概要」として発表した。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計22件)

大石眞、両院制運用への展望、北大法学論集、査読無、63巻3号、2012年、87-112頁

大石眞、実務の観点からの立法学の構築を目指した金字塔：大島稔彦『立法学 理論と実務』書評、自治研究、査読無、89巻11号、2013年、146-155頁

大山礼子、制度的要因から見たフランスの大統領選挙——半大統領制と二回投票制の影響力、駒澤法学、査読無、12巻3・4号、2013年、172-147頁

大山礼子、参議院改革の前提としての国会審議改革、都市問題、査読無、104巻5号、2013年、66-73頁

大山礼子、比較議会政治学、岡澤憲芙『比較政治学のフロンティア：21世紀の政

策課題と新しいリーダーシップ』(ミネルヴァ書房)、2015年、78-89頁

大山礼子、参議院改革から立法府改革へ、憲法理論研究会編『憲法と時代』(敬文堂)、2014年、123-136頁

原田一明、議会先例としての『機関承認』の意味、曾我部真裕=赤坂幸一編『憲法改革の理念と展開』上巻(信山社) 査読無、2012年、700-724頁

木下和朗、イギリスにおける憲法改革：ウェストミンスター・モデルと政治的憲法をめぐって、比較憲法学研究、査読有、25号、2013年、57-84頁

木下和朗、イギリス貴族院の現況：Meg Russell 両院制論に関する解説とコメント、岡田信弘編『二院制の比較研究：英・仏・独・伊と日本の二院制』(日本評論社) 2014年、141-162頁

木下和朗、岡田信弘・笹田栄治・長谷部恭男編著『オーストラリアにおける両院制 直接公選対等型両院制に関する制度考察』、憲法の基底と憲法論(信山社)、2015年、359-385頁

赤坂幸一、鈴木隆夫と議事法、鈴木隆夫『国会法の理念と運用：鈴木隆夫論文集』(信山社) 査読無、2012年、vii-viii頁

赤坂幸一、人口比例と有権者数比例の間、論究ジュリスト、査読無、5号、2013年、42-48頁

赤坂幸一、議院統制の二つの概念、法政研究(九州大学法学会) 査読無、81巻1・2号、2014年、1-16頁

村井良太、1920年代の政治改革、その逆コースと市川房枝 政党内閣制黄昏期の内閣と議会と社会、坂本一登・五百旗頭薫『日本政治史の新天地』(吉田書店) 査読無、2013年、277-310頁

奈良岡聰智、加藤高明と陸奥廣吉、曾我部真裕=赤坂幸一編『憲法改革の理念と展開』上巻(信山社) 査読無、2012年、683-715頁

奈良岡聰智・上田健介、イギリス議会文書館・図書館の概要、Reserch Bureau 論究、査読無、11号、2014年

奈良岡聰智、原敬をめぐる「政治空間」、芝本邸・盛岡別邸・腰越別荘、伊藤之雄編著『原敬と政党政治の確立』(千倉書房) 2014年、619-668頁

奈良岡聰智、第一次世界大戦と原敬の外交指導：1914 - 21 年、伊藤之雄編著『原敬と政党政治の確立』（千倉書房）、2014 年、239 - 321 頁

奈良岡聰智、二十一カ条要求提出の背景 日露戦後の日中関係と加藤高明、法学論叢、査読無、176 巻 2・3 号、2014 年、348 - 396 頁

奈良岡聰智、二十一カ条要求の策定過程 第五号をめぐる加藤高明外相の外交指導、法学論叢、査読無、176 巻 5・6 号、2015 年、266 - 327 頁

②1 奈良岡聰智、議場構造論 「ひな壇」廃止論をめぐる攻防を中心として、御厨貴・井上章一編『建築と権力のダイナミズム』（岩波書店）、2015 年、35 - 62 頁

②2 小宮京・中澤俊輔、山川健次郎日記（写本）前編・後編、中央公論、査読無、129 巻 1 号・2 号、2014 年、132 - 144 頁、136 - 148 頁

〔学会発表〕（計 1 件）

AKASAKA Koichi, Die Geschichte der japanischen Verfassung und die Rezeption des deutschen Rechts, Kolloquium des oeffentlichen Rechts, 2015 年 3 月 2 日、Humboldt Universitaet zu Berlin, Juristische Fakultae

〔図書〕（計 件）

大石眞、憲法講義 I 第 3 版、有斐閣、2014 年、386 頁

大山礼子、フランスの政治制度 改訂版、東信堂、2013 年、214 頁

平野貞夫著、赤坂幸一・奈良岡聰智校訂、消費税国会の攻防 1987 - 88：平野貞夫衆議院事務局日記、千倉書房、2012 年、544 頁

赤坂幸一編集・校訂、初期日本国憲法改正論議資料、柏書房、2014 年、1184 頁

赤坂幸一・御厨貴・清水唯一朗・山本健太郎編、大森政輔オーラル・ヒストリー、東京大学先端科学技術センター、2015 年、297 頁

平野貞夫著、赤坂幸一・奈良岡聰智校訂・解題、平野貞夫衆議院事務局日記、第 1 - 4 巻、信山社、2013 年、1 巻 = 239 頁、2 巻 = 385 頁、3 巻 = 268 頁、4 巻 = 252 頁

奈良岡聰智、対華二十一カ条要求とは何だったのか：第一次世界大戦と日中対立の原点、名古屋大学出版会、2015 年、488 頁

尚友倶楽部・小宮京・中澤俊輔編、山川健次郎日記、芙蓉書房出版、2014 年、257 頁

〔産業財産権〕  
出願状況（計 0 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等 特になし

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

大石眞（Oishi Makoto）  
京都大学・法学研究科・教授  
研究者番号：90091660

### (2) 研究分担者

原田一明（HARADA Kazuaki）  
立教大学・法学部・教授  
研究者番号：50244405

大山礼子（Oyama Reiko）  
駒澤大学・法学部・教授  
研究者番号：70275931

木下和朗（Kinoshita Kazuaki）  
北海学園大学・法務研究科・教授  
研究者番号：80284727

赤坂幸一（AKASAKA Koichi）  
九州大学・法学研究院・准教授  
研究者番号：90362011

奈良岡聰智（Naraoka Sochi）  
京都大学・法学研究科・教授  
研究者番号：90378505

小宮京（Komiya Hitoshi）  
青山学院大学・文学部・准教授  
研究者番号：80451764

(3)連携研究者

御厨貴 (Mikuriya Takashi)

東京大学・先端科学技術センター・教授  
研究者番号：00092338

待鳥聡史 (Machidori Satoshi)

京都大学・国際公共政策研究科・教授  
研究者番号：40283709